

産業・建設・水道分科会の経過及び中間報告

22. 11.26 伊藤 分科会代表

1. テーマ

- 〔1〕「海の寺泊」人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくり
- 〔2〕農業、漁業、観光の連携（グリーン・ツーリズム）
- 〔3〕特産品の開発と地域ブランドづくり

2. 経過

◎平成21年9月10日【第1回】

分科会では、市長に提案するテーマを「海の寺泊」ブランドの確立…[人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくり]をメインテーマに基づき、協議した結果、4項目に絞り込む。

○具体的テーマとして提案された内容は、次のとおり

- ① 「海の寺泊」人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくり
- ② 農業、漁業、観光の連携（グリーン・ツーリズム）
- ③ 地域特産物のPR
- ④ 環境と資源を生かした、住民協働による「銘産品の開発・特産品づくり」による地域産業おこしと商品開発

◎平成21年10月9日【第2回】

上記4項目について、各委員が、資料等を作成し、協議することとした。

○結果については次のとおり

- ① 「海の寺泊」人と自然と歴史が融合した活力あるまちづくり
 - * 構想は、今後、具体的に時間をかけ、関係者の理解を得ながら分科会のテーマとして、検討事項としたい。
- ② 農業、漁業、観光の連携（グリーン・ツーリズム）
 - * グリーン・ツーリズムは、人を呼び込むためにも大事なことである。また、観光としても大事なことである。今後、是非とも分科会のテーマとして、検討事項としたい。
- ③ 地域特産物のPR
- ④ 環境と資源を生かした、住民協働による「銘産品の開発・特産品づくり」による地域産業おこしと商品開発
 - *項目③、④については、「地域特産ブランドづくりと地場銘産品の開発促進」として、一つの提案にまとめ、市長への提案に向けて進めたい。

◎平成21年12月17日【第3回】

10月23日 第3回地域委員会の中間報告に基づき、審議する。

項目③、④については、名称を一部変更し「特産品の開発と地域ブランドづくり」(案)を市長への提案に向けて進める中、これを主に協議することとした。

○経緯・結果は次のとおり。

- ・本当の狙いは「海の寺泊ブランド」と「農林水産業」が一体となる
ことが地域の発展につながる。
- ・いずれも抽象的なので、具体的なものにしたい。
- ・地域委員会の分科会として、協議会を立ち上げたい。関係団体と意見交換のチャンスを1回つくったらいいのではないか。

*特産品の開発等で関わっている各団体から参加していただき、意見交換、協議することに決定。

◎平成22年2月5日【第4回】

特産品の開発と地域ブランドづくり意見交換の開催

〔参加団体〕9団体

菜の花・油プロジェクト高内・寺泊地域認定農業者連絡協議会
寺泊観光協会(欠席)・寺泊緑提灯会・寺泊町商工会
JA越後さんとう組合・寺泊漁業共同組合・区長連合会
農村地域生活アドバイザー

○経緯・結果は次のとおり

- ・海岸部と農村部でお互い良い交流ができるのではないかと感じている。
- ・構成団体、役割をどうするのかということは、地域委員会の中でもう少し詰めなければいけない。

*分科会としては各団体の意見交換を参考に、特産品、ブランド品づくりを掘り起こすため、協議を進めていく。

*今後の協議の中で、ブランド品づくり等の協議会創設も考えられる。そのためには、各団体及び有識者の協議が必要。

◎平成22年3月9日【第5回】

寺泊地域特産ブランドづくりと地場銘産品の開発促進

○経緯・結果は次のとおり

当面の事業展開について

- ・ソフト部分から活動を開始し、それから検討に入り、専門的な部分については部分ごとに調査をする。
- ・ブランド化は、農業関係の人たち。
- ・産直・体験は、観光協会、商工会など。
- ・三つのグループに分けて話し合ってもらってはどうか。
- ・最終的にはそういう方向にもっていきたいが、まずは各分野の人たちが集まって意見交換をしていきたい。
- ・「寺泊地域特産づくり推進協議会（仮称）」を正式に立ち上げたい。
- ・特産物として絶対に作ってほしいものは、農産物と魚産物を両方入れた商品である。

*分科会としては「寺泊地域特産づくり推進協議会（仮称）」を正式に立ち上げたい。

*各団体の様子を含めて条件を整理し、地域委員会全体として合意を得るというステップを踏む必要がある。

◎平成22年7月15日【第1回】

3月16日 第5回地域委員会の中間報告に基づき、「特産品、ブランドづくり」今後の活動方針について協議する。

○経緯・結果は次のとおり。

- ・「寺泊地域特産づくり推進協議会（仮称）」を正式に立ち上げたい。
- ・地域委員会でも、意見交換の方々の意見を聞き、協議会の設立の呼びかけをしてもいいのではないかと、そうした中、賛同してこられた方を踏まえてやっていかなければならないということになっている。
- ・地域ブランドづくりと協議会の設置については、提言だけであれ出来るが、現実問題としてまとまるのか疑問である。
- ・魚の他に何かといわれると、これはというものが出てこない。広く団体から意見を聞くのも方法の一つで意見交換を行ったが、具体的に特産品を絞り込むは難しいのではないかと。
- ・特産品づくりは、5年スパンで考え、2年位は実態把握をし、研究しなくてはいけない。
- ・色々考える中で、すぐ明日からできる問題ではない。そのことを踏まえて検討する余地がある。
- ・任期2年だからといって、その中で結果を出せれば最高だが、土台をつくりましたということで十分価値あることだと思う。
- ・協議会設立するにも目的、方向性を盛り込んだほうがいい。
- ・大きなテーマで今すぐどうこうできるような方向が出せない現状。
- ・協議会をつくったそれじゃどうしようとなると、その時ノウハウを

持ったリーダーがないとだめ。

- ・ 活動の方針については、元に戻ってもう一回チェックし、やり直しをしなければならない。
- ・ 具体的なものが出た時に設立すればいい。
- ・ いろんな人の意見を聞こう、いい意見をまとめようという話だった。もっと時間をかけた方がいい。
- ・ いずれも抽象的なので、具体的なものにしたい。

*積極的に「寺泊特産品の開発と寺泊地域ブランドづくり」に活動している各団体の方と寺泊地域委員会の分科会との意見交換会の意見を参考に、「地場銘産品の開発」と「特産ブランドづくり協働活動促進制度の創設」を目標とし、これを実現するための母体として「寺泊地域特産づくり推進協議会(仮称)」を立ち上げるべく、協議を重ねてきました。

しかしながら、議論の結果、「具体的に特産品を絞り込む事が難しい」、「特産品の実態把握について更に研究、検討が必要」、「協議会設立をするにも具体的な目的、方向性を盛り込む事が必要」等、協議会を設立するには時期尚早との意見があり、具体化に向け、今後更なる協議、検討を行うことが必要がある。という結論に至りました。